

「第二次第二次富士市自殺対策計画（案）」の
パブリック・コメントに対する意見及び回答

反映結果の項目は、「1 反映する」、「2 既に盛り込み済み」、「3 今後の参考にするもの」、
「4 反映できないもの」、「5 その他（案件とは無関係な意見等）」の5区分

※意見の内容につきましては、提出者の意向により原文のまま作成しました。

No.	意見の内容	市の考え方	反映結果
1	<p>20歳代の給料を2倍にする。一時的な損失にはなるが、20歳代に金銭的な余裕ができれば必然的に結婚を考え、子供が増える。他県からも若い世代が入ってくる。生まれた子供が大人になり、富士市の経済を回せば街が豊かになる。自殺を考えるのは生きる理由を見失っているから。金銭的に余裕があり、仕事に夢中になっていれば自殺は考えない</p>	<p>若者の給料（賃金）に関する御意見ですが、経済対策は、若者世代に限らず、すべての世代において重要なことと認識しております。</p> <p>しかしながら、給料（賃金）は使用者が労働者に対して労働の対価報酬として支払うものであり、その金額は個別契約によって定められています。</p> <p>また、その金額の決定は、使用者（事業所）の財務状況や競争力、市場の需要と供給のバランス、労働者に対する期待値などを考慮したうえで決定されます。</p> <p>このため、民間の使用者が労働者に対して支払う給料（賃金）に対して、市が直接的に関与することは非常に困難になります。</p> <p>自殺には、経済や雇用問題だけではなく、生活や人間関係、健康関係の問題のほか、その人の性格や家族の状況、死生観など、様々な課題や背景があり、平均で4つの要因が連鎖する中で自殺が起きているという調査結果もあります。</p> <p>そこで、本計画では「生きることに対する阻害要因（自殺のリスク要因）」を減らす取組と「生きることへの促進要因（自殺に対する保護要因）」を増やす取組を総動員し、それらを自殺対策の視点を通じて結びつけることで、包括的な支援として自殺対策を推進するとしております。</p> <p>なお、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	<p>3 今後の参考にするもの</p>

2	<p>工場勤務三交代などによるギャンブル依存者が多いと思われる。パチンコ屋が富士市に多い。パチンコ屋の減少、家族連れや若者がギャンブル以外で楽しめる場所を作る。</p>	<p>家族連れや若者が楽しめる場所の整備についての御意見ですが、そのような場所の整備も重要なことと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
3	<p>富士駅周辺、吉原本町などシャッターが閉まっている。外人の増加により治安も悪くなってきている。製紙会社の減少、雇用や給料上がらず物価高等。富士市ならではの手当や一時金、減税を増やす。生活しやすい市にする。</p>	<p>中心市街地の賑わいや、雇用問題、給付金や減税など家計を支える経済問題についての御意見ですが、これらの対策も重要であると認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
4	<p>富士市にあるお寺も相談窓口にしていただいて良いかと思えます。うちのお寺では「きつきこ ころの休憩所」という相談室を月二回ひらいております。もし何かあれば協力させてください。</p>	<p>御提案いただいた相談窓口以外にも、公設私設を問わず、多様化、複雑化した悩みや問題の受け皿となる様々な相談窓口があることを認識しております。</p> <p>ひとりで悩まず身近な方や相談機関に相談することは、有効な自殺対策になりますので、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
5	<p>特に未成年の方に対してです。</p> <p>兎にも角にも、本人に、「自分が一番大事である」「自分が好き」ということを意識づけること。</p> <p>その意識付けができるメンターをあてがうこと。(私の経験上、精神科医や臨床心理士はあまり当てにならない(当たり外れもあります) 優遇</p> <p>メンターとしてのベストはそのような経験(自殺にかかわる経験)のある方。要は経験者でないと当事者の心に届きにくいということです。</p> <p>当人以外の家族のバックアップは絶対必要だと思います。この時、家族は寄り添うが主。また、家族自身は発信(自分の思いや考え)はしない。</p>	<p>未成年者に対する自己肯定感の向上に関する御意見ですが、子ども・若者の健全やかな成長と自立には、自己肯定感を高めることも重要だと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの

<p>6</p>	<p>こんにちは 第二次自殺対策計画(案)の概要しか、読みませんでした。意見を述べます。詳細計画を読むのは、辛い過去を思い出しそうやめました。 「生きる事への促進要因」として、、、の意見です。 富士市の特徴の一つには、「知らない人とはしゃべらない」傾向が強い事があげられます。運動教室やまちづくり講座に参加しても、たいがい愛想よく話しかけてくれるのは、市外から転居して来た方々でした。 なんとなくの疎外感を感じつつ、活動に参加させて頂いて、皆様と少しずつ馴染める様になって来て、心の隙間に明るい日差しが差し込んで来たこの頃です。 地元の方と馴染めるかなあと希望を持てる様になるまで、まるまる10年かかっています。 その間運動教室に通ってボランティア的な振る舞いを心がけたり、図書館に行ってみたり、地域の住民から声が掛からなくて、地域活動に参加し難くて、孤独な思いをしてました。でも、コロナが始まり、社会の構造が揺らいで、私にも富士市民として入る隙間があるかも知れないと思い、資格取る勉強も始めたりしました。目標の資格はハードルが高いと勉強を進めるにつれてわかって来るのですが、私は意気揚々と、目標とする資格と関連した活動への参加を少しずつはじめていきました。 飛び込んだ市民公募委員では、それなりに暖かく迎えて頂いたものの、7年ものブランクで、社会生活とかけ離れていたもので、場違いな意見を発言してみたり、色々と恥をかきながらも、懸命に地域ボランティアに参加したりして、地域に馴染む努力をしました。 7年の引きこもり生活のうちには、踏切に入って自殺しようとした事もありました。幸い電車の風圧が私の体を跳ね除けたので、枯れ草にまみれて家にたどり着いた事も覚えています。 そんな私が思う事は、今盛んに検討が進められている「コミュニティスクール」でも「生きる事への希望」を持たせてあげられるのではないかという事です。 一度人生を断とうと思った人間にとっ</p>	<p>コミュニティスクールや音楽活動を通じた「生きることへの促進要因（自殺に対する保護要因）」を増やす取組」に関する御意見ですが、自殺には、経済問題、生活や人間関係の問題、健康問題のほか、その人の性格や家族の状況、死生観など、様々な課題や背景があり、平均で4つの要因が連鎖する中で自殺が起きているという調査結果もあります。 このため、本計画では、市が実施する「生きることに対する阻害要因（自殺のリスク要因）」を減らす取組と「生きることへの促進要因（自殺に対する保護要因）」を増やす取組を総動員し、それらを自殺対策の視点を通じて結びつけることで、包括的な支援として自殺対策を推進するとしております。 このため、頂戴した御意見につきましては、「生きることへの促進要因（自殺に対する保護要因）」を増やす取組」として、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	<p>3 今後の参考にするもの</p>
----------	---	--	---------------------

て、子供達の明るい声はまぶし過ぎるかも知れません。でも屈託なく、まっすぐ生きる子供達のくすぐったいぐらいの明るさが、こころの片すみをほぐしてくれる事は、間違いありません。

本当に、子育て出産も出来なかった自分を、受け入れてくれた学校には、感謝の気持ちいっぱいです。

子供達の明るさがうれしい。こんなに人の子でも愛せる自分に、若かった頃とは別の、暖かな心で生きていく自信が、私の心に育つのを感じています。

学校のコミュニティスクールの活動としては、地域や地元の特徴を学ぶイベントなど、特別な一日を生徒に提供するの、素敵な取り組みだと思います。

でも私が考えるのは、もう一方で、普段から、たくさんの地域住民に通ってもらって、草取りや花壇の手入れ、子供達の手が届かない場所のお掃除や、先生方のサポート、音楽や図工家庭科調理実習などなどの特別科目の準備やお手伝い、、通う住民の得意分野での活動の場として、学校を開放するぐらいの勢いで、コミュニティスクールを実現させる事です。

もちろん、子供の安心安全な学びの教室は確保しなければなりません。

しかし、少子化が進む昨今、教室を一つ、集まったボランティアさせて貰いたい地域住民に、ボランティア拠点として、提供してくれてもいいはず。コミュニティスクールの拠点と捉えてもいいかも知れません。コミュニティスクールディレクターが、職員室に席をひとつ貰っても、全然、地域住民の声を集められるとは思いません。

気のいい地域住民のお年寄りや主婦、乳幼児抱えたお母さん方に、お散歩やお買い物ついでにでも、お立ち寄りください。と看板立てて、まずは、学校の様子を見て感じてもらうところから、始めてはいかがでしょうか？

子供達の手洗い場が少し汚れていたら、ちょっと洗ってあげようかと、下駄箱お掃除しようとか、壊れた窓の縁を修理してくれたり、教室にお花飾ったり、時計の時間を合わせたり、蛍光灯の取替えだって、地域住民ができる事を少しずつ協力し合って、学校を学びの場を守ってい

く事が大切だから、コミュニティスクールと銘打って、行政が計画して取り組んで来たのだと思います。ディレクターお一人に任せたって、どうにかなるわけではありません。

本当のコミュニティスクールって、子供達と一緒に、通学路を通って来るお年寄りや主婦主夫がいていいはずなのです。学校ボランティア専用の教室があれば、そんな風は大っぴらに、堂々と地域住民に登校してもらい、集まった人同士が、話し合ったり、単独でできる事を見つけて実行し活動内容を充実させていく方向へ向かうのが、コミュニティスクールの理想でしょう。

例えば、不登校になりそうな子も、ボランティア参加をしながら、学校に親子さんがいらしてくれれば、心強いはず。不登校になっちゃた子も、親子さんのボランティア参加で復活の糸口をつまめます。

地域住民の参加で、そんな事情を抱えたご家族も、目立つ事なく和に溶け込めるはずです。自殺に繋がりそうな、不登校も改善しやすいし、大人の引きこもりさんも、学校、母校からやり直す気持ちで、ボランティア参加してもいいし、怪我回復後のリハビリの場として、学校ボランティアを活動場所に利用したっていいはずです。

デイサービスに通うほどボケちゃいないが、イマイチ活動場所を見つけにくくなってしまったお年寄りには、まず、コミュニティスクールに参加して、ボランティアできる事を見つけて、CSを活動の場として定着させて行きたいものです。そんなふうに、地域住民の活動の場としての学校のイメージが、地区に定着すれば、CS活動に、引き籠りさんや、心の疲れたサラリーマン、すっかり社会から孤立して子育てに追われるお母さんおばあちゃんが、集まりやすくなっていくと思う。

自殺したい人って、なんで自殺したくなっちゃたか考えてあげたことありますか？

自殺防止委員会の方々に、この場で問いかけます。

人間って、1人で生きてる訳ではありませんが、例えば1人で生きていたとしま

しょう。誰に傷つけられる事もないから、恐竜にでも襲われない限り、自殺しようなんて思いませんよね。

引きこもったり、自殺したいという感情は、人と関わって生きているから、何かの拍子で、湧き出たりあふれ出たりしてしまものでしかないのです。

人の輪の中で、傷ついてしまった心は、自分 1 人で治せるものでしょうか？多分、1人になって、気持ちを整理したり、整えたりと、気が澄むまで、のんびりこころを癒す必要もあろうかと思いますが、1人の時間は、ほどほどで切り上げて、着かず離れずがプロフェッショナルな地域住民の輪に混ざって、人の和の中で、自分を大切にする方法を学び取らせてあげる事がとても大切に思えます。それって、子供達の明るい声が遠くから聞こえて来るコミュニティスクールの様な環境が1番相応しいと感じています。こんな思いを届けようと、メッセージを入力しました。

ヤングケアラーさんも助けてあげなくちゃいけないし、介護対象の命途絶えたりしてヤングケアラーを卒業した若者の受け入れ先にだって、コミュニティスクールはなり得るのです。先生方や地域のみなさんに見守られて、コミュニティスクールでボランティア活動に通ううちに、周りからの信頼を少しずつ勝ち取り、自分を育て直す事が出来る場として捉えて良いはずなのです。

学校での活動実績は、次の就職先を見つけるのにだって、十分に信頼し得るものなのです。

傷ついた心を抱えてしまったら、自分で自分を育て直す。大切に自分をゆっくり取り戻す。そんな大切な過ごし方をすべき時間には、地域の学校という学舎に、遠慮なく身を寄せて、人と関わる自分の感情の変化を認識していけば、色々なことに気がついて、立ち直れると思うのです。

でたらめな人間関係の中で、自分を見つめるのは、多分難し過ぎて、不可能なのではないでしょうか

ヤングケアラーを真っ先に例に挙げましたが、退職後に家庭生活に馴染みにくいお父さんおじいさん達や、介護生活を経て親を見送った主婦主夫、頑張っ

社勤めしてみたけれど、ふと立ち止まると虚しさを感じる独身壮年層男女、子を成さなかったご夫婦。様々なご家庭から、CS参加を呼びかけて、自殺したくなかった人を混ぜてあげて、みんなで、自分に足りない部分を見つけ合って、充実した家庭生活を送れる様に活動の場を、それぞれの地域に、作って維持していくって、大切です。

後の意見は、音楽の子達は、感受性が発達していて無邪気だから、すぐに傷つきやすくて、落ち込みやすいから、得体の知れない悪気にで合って、自殺を考えちゃうかも知れない。

そうしたら、意地悪ってこんなものだから、気にしない気にしないと励ましてあげましょう。

多分自分の奏でる音楽で自分の心を表現して、心を育て直せるくらいの頑張り屋さんが多いはずです。

そんな立ち直りをする子って、屈託なく無邪気に、ストリートピアノで披露したり、歌ったり、ミニコンサートを計画したり、人知れず頑張る気持ち満載だから、地区の文化祭に演奏発表の申し出があったら、必ず実現させてあげてくださいね。

音楽の申し出を断ってはいけません。

音楽で言葉にならない自分の気持ちと心を、やっと伝えようと申しでてるのだから、押し除けない様にしてあげましょう。

自分の気持ちを言葉にすれば、誰かが傷つき、誰かが落ち込む。もう誰も傷つけずに生きていこう。そんな風に思って、ただひたすらに、音楽に打ち込んで、のめり込んで、自分の心を大切に育て直した音楽の子達は、気が済んだら、自分の心の音楽をみんなに聞いてもらって、みんなも自分も笑顔になれると信じているんです。

音楽の申し出を断ってはいけません。

そんな音楽の子を見かけたら、小さくてもいいから、心こもる発表の場、演奏の場を用意してあげてください。

(ストリートピアノもそんな音楽の子の立ち直る自信に繋がります)

例えば、かぐや姫ミュージアムの歴史博物館なんか、よく響きを通りそうな音楽ホールに見えてしかたないので、いっそ

の事、統合されちゃう学校のピアノを運び込んで、調律してあげて、ストリートピアノ企画を立ててみては、いかがでしょうか？

追伸

富士市の音楽は「かしこまりすぎている」と感じる事があります。

拍手もらえるかなあって、常に気にしているお行儀の良い子ばかりかなって感じます。

私の出身地では、吹奏楽部はサッカー試合の応援に駆り出されたり、野球の応援に駆り出されたりと、明るく躍動的な音楽を皆で作ってあげていた様な気がします。

富士市は室内楽中心かなあって、思ったり感じたりしています。

もう一つの違いは、拍手のタイミングです。

上手と思わない限り拍手はしない。正直な気持ちを拍手の強さ回数で、聞き手が評価する。。。そんな正直さが、富士市の特徴ですね。

でも本当は、こんな感じが正解です。

高校生の部活動で開演する定期演奏会には、お友達の高校の演奏会に出かけて、上手だろうが下手だろうが、失敗しようが、お友達のそこまでに努力を讃える為に、惜しみない拍手を贈る。聞きに行った友達同士で、拍手の回数と大きさを競い合いながら、拍手の練習をし合って、笑いながら拍手して、拍手する事自体を遊びに思っ楽しむ。

そんな正解を、私は高校生時代に経験しているの、富士市の音楽の子達にも、

「そこまで練習したその努力を讃える拍手」の仕方を教えてあげてたいなあと、、、常々、思っています。

どん底から立ち上がって来た音楽の子の、音楽披露の申し出は、実現させてあげましょう。

上手く立って下手だって、音大生じゃなくたって、自分の素直な心をやっと見つけて、自分そのものの音楽を発表したいって、申し出るんだから、決して、断ってはいけません。

自殺したい気持ちから立ち直った音楽の子達を、優しく受け止めてあげましょう。

はじめの意見を印刷して読み返し、申し

そびれた事を、追記します。

コミュニティスクールへの参加を呼び掛けてあげたい立場を、文章の中に少し織り交ぜて、作文したけれど、次の立場の方々も、地域で暖かく見守ってあげた方がいいと思います。

「心を病んで、会社に申し出て、長期の療養生活を家庭で過ごす為に、会社を休んでいる大人。精神療養の為に、精神的医師かた診断書を貰って会社の了解を取って、家庭で療養生活しているお父さんや夫」少し心が落ち着いたら、コミュニティスクールのボランティア活動に参加して、社会復帰の感覚を取り戻していく。そんな社会復帰の準備の活動場所として、コミュニティスクールに誘ってあげたい。

コミュニティスクールを自殺防止の為に地域の活動場としても捉えようという、私の意見ですが、これについて、厳しい見方も持っている事をお伝えします。どんな厳しい意見かと言いますと、「ボランティアして地域に貢献しよう」「ボランティアして子供の学びの場を守ろう」

「私の小さな力でもボランティアする事で、地域の誰かの役に立つ筈」といろいろな思いで、いそいそとコミュニティスクールのボランティア活動に集まってくる人物しか、暖かく見守ってあげられないと思っている事です。

傷ついて引きこもった子を、無理矢理引きずり出してこれないのですから、必然的に、「こんな自分でも誰かの役に立てる筈」と言う、CSに集まって来れる人物の持つ共通の思いを実現しようと努力する気持ちが芽生えた人しか、救ってあげられないと思うのです。

要するに、誰かを助けてあげようと思っ出て出向いてくれる人しか、助けてあげられないのです。

逆から言えば、「子供を助けてあげようとか、学びの場を守ってあげようとか思って、コミュニティスクールのボランティア活動にさんかしてみたら、逆に、子供達のかわいい姿に元気100倍になって、生活に潤いが戻った」と言う事になるのです。

客観的に申せば、「他人を助ける心を持つ人しか、助けてあげられない」

	<p>と言う事になります。</p> <p>CS にまつわる意見は以上です。</p> <p>音楽の子達の意見で、言いそびれた事！ 1回、(たぶん、はじめの1回だと思えますが…) 私は、音楽の申し出を、まちづくりセンターに、即座に、断られたことがあります。</p> <p>前例がなかったせいかな？ 期間的に無理なのか？</p> <p>わかりかねたままなのですが、とても、がっかりしました。</p> <p>音楽の子たちの復活を妨げるなんて、音楽の子達の苦悩をなにも知らないくせに、音楽の子たちの不屈の精神と人知れず努力した音楽の発表の場を力尽くで立場を利用して押し除けてるなんて事実があるから、自殺しちゃう子が絶えないのではないのでしょうか？</p> <p>どんなに勇気を振り絞って、音楽の申し出をしてみたか？ わかりますか？</p> <p>音楽の子は、にこにこして、人に不快な感情を向けられない様に生きる傾向があるから、</p> <p>人の気持ちをおもんばかりの事のない音楽を知らない筋肉畑のやつらから見れば、幸せそうに見えるかも知れないけれど、</p> <p>音楽の子の場合、幸せそうに見えれば見れる子程、より深い悲しみを知っているのです。。</p>		
7	<p>意気込みはわかったけど、何処まで助けてくれますか。建前でいうのは容易いと思う。</p> <p>友達が三人自殺しました。もう見たくないです。なにかしてくれますか。建前はいりません。具体的なことが欲しい。</p>	<p>市が具体的に何を実施するかについての御意見ですが、本計画の第7章及び第8章(計画書 P44～P63)に、計画期間中に実施する具体的な取組として、「重点施策」に位置づけた31の取組及び、「生きるを支える施策」に位置づけた49の取組、合計で80の取組を挙げております。</p> <p>なお、回答者様におかれましては、身近な人を自死で亡くされたということで、御心痛いかばかりかと推察申し上げます。</p> <p>既に御存じでしたら恐縮ですが、静岡県精神保健福祉センターでは、大切な人、身近な人を自死で亡くされた方が、ありのままの胸のうちを語り合い、わかちあうための会「東部わかちあい すみれ会」や面接相談の「すみれ相談」を実施しております。こちらに関しましては、県ウェブサイト上で案内をしておりますので申し添えいたします。</p>	2 既に盛り込み済み

8	<p>周知についてクロスガーデンの女子トイレにある男女共同参画課が行っている名刺大のチラシをほかのところで置いて欲しい。</p> <p>それか(一社)ライフサポートしずおかのポスターをラミネート加工して、ショッピングセンターの多目的トイレに貼るといいと思います。</p>	<p>「女性のための相談室」等の周知の方法についての御意見ですが、多くの方の目に触れる、また手に取っていただく周知の方法も重要だと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては担当課に申し伝えるとともに、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p> <p>なお、本計画では、悩みを抱えた方に対する相談窓口を紹介するチラシや名刺大のカードを作製し、様々な所に配架する取組を進めてまいります。</p>	3 今後の参考とするもの
9	<p>ひきこもりについて多くは対人関係のトラブル(いじめ等)で人と会いたくないから始まるので、今だったらオンライン相談から始めてオンラインでできる仕事から始めさせればよいと思う。</p>	<p>ひきこもり対策についての御意見ですが、オンラインによる相談窓口や支援につきましても、パソコンやタブレット、スマートフォンなどで利用でき、受付時間の制限がないものもあることから、利用に対する相談者の心理的負担の軽減を図ることができ、かつ、利用者の利便性が高いという利点があります。</p> <p>一方で、利用者からの様々な相談に応じるための、質の高い人材の確保や、緊急性が高い相談を受け付けた場合の対応などの課題が想定され、さらに、相談窓口の中には、利用状況が伸び悩むものもあり、費用対効果の面で課題があることを認識しております。</p> <p>このような状況ではありますが、本計画の45ページにあるとおり、ニートやひきこもり等の若者の支援としまして、対面や電話、メールでの相談を行っており、相談しやすい体制の整備に努めております。</p> <p>また、オンラインによる支援につきましては、本計画の計画書の50ページにあるとおり、国や県が開設する相談窓口がございますので、そちらの周知啓発に努めてまいります。</p>	2 既に盛り込み済み
10	<p>いじめについて、どうもいじめが分かると教師の給料査定に跳ね返るということをごどこかで読んだことがあるので、隠蔽するのか。</p> <p>それとかなり前のことだけど、いじめを解決しようとした教師がどこかに飛ばされたということがあったし、SNSを見ても北海道の旭川の事件を見ても、解決しようとしているのか、と思うことがあります。</p>	<p>児童生徒のいじめ対策についての御意見ですが、いじめ対策も重要なことと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考とするもの

11	<p>計画書 P46 (3) について、産後ケア事業の対象者は1歳未満の乳児と母となっているが、生後2か月となっているのは、何か理由があるのでしょうか。</p>	<p>御指摘のとおり、令和3年度から産後ケア事業の対象者が生後1歳までの子どもと母親となりました。</p> <p>つきましては、「生後2か月頃まで」を「生後1歳になる前日まで」に修正いたします。</p>	1 反映する
12	<p>計画書 P46 (3) について、こども家庭課の事業である「家事育児サポート事業」「養育支援ヘルパー派遣事業」も取り組み事業の中に入るのはないでしょうか。</p>	<p>御意見をいただいた事業につきましても、「生きる支援」として重要であると認識しております。</p> <p>また、これらの事業以外にも、多くの事業が直接、間接を問わず「生きる支援」に通じているものと認識しております。</p> <p>このため、本計画では、「生きる支援」に関係するすべての事業を自殺対策計画の取組とするのではなく、それぞれの計画の中で各事業を推進していき、本計画書のP3にあるとおり、本計画と関連する計画と連携を図ることで自殺対策を推進するとしております。</p>	4 反映できないもの
13	<p>計画書 P46 (3) について流産死産を経験した産婦のケアも加えた方がいいように思います。</p>	<p>御意見をいただきました産後ケア事業の対象者の中には、流産、死産を経験した産婦も既に含まれております。</p>	2 既に盛り込み済み
14	<p>計画書 P51 の第7章について、先日医療機関で起きた心中は、とても衝撃的で悲しい事件でした。そして複数のケアを担う方「ダブルケア」支援の必要性を強く感じました。</p> <p>ダブルケア当事者への支援はもとより、全ての支援者や市民に「ダブルケア」の啓発をして実態を知ってもらうことで、大変な思いをしている人の発見に繋がりが、このような悲しい事件は減っていくと思います。</p>	<p>子育てと親や親族の介護を同時に担う「ダブルケア」に対する支援についての御意見ですが、ダブルケア支援も重要なことと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
15	<p>計画書 P60 の (5) —4 について、ひとり親家庭の自立支援の内容に記載されている3つの事業は、他の項目と違って即効性のないと感じました。</p> <p>今困っていることに対応できるようなひとり親支援を載せた方がいいと感じました。</p>	<p>御指摘のとおり、当該事業につきましても即効性はありませんが、資格取得により生活が安定することは、中長期的に見て自殺予防につながるものと考えております。</p> <p>また、現在、生活に困っている人に対する支援につきましては、「児童家庭相談事業」にて、ケースワーカー及び家庭相談員が相談に対応しており、各ひとり</p>	2 既に盛り込み済み

		<p>親家庭の状況に応じたサポート及び必要な相談窓口を紹介しております。</p> <p>本計画では、「生きる支援」に関するすべての事業を自殺対策計画の取組とするのではなく、それぞれの計画の中で各事業を推進していき、本計画書の P3 にあるとおり、本計画と関連する計画と連携を図ることで自殺対策を推進するとしております。</p> <p>今後も、一人一人に寄り添った支援ができるよう、関係機関等と連携した支援を行ってまいります。</p>	
16	<p>計画書の P64 の第 8 章の 1 について、これは感想ですが、平均死亡率 17.2 以下＝亡くなる人がいる前提の数字に胸が痛みます。ゼロになってほしいです。</p>	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p> <p>引き続き、誰もが自殺に追い込まれることのない富士市の実現を目指して、自殺対策を推進してまいります。</p>	3 今後の参考にするもの
17	<p>計画書の P66 の (3) について、養育支援対象者への平均支援回数は、対象者 1 人に 2 回という意味でしょうか。</p> <p>もっと手厚い養育支援が行われるために、行政の保健師等だけでなく民間の専門職も連携、活用して、見守りの強化を図っていくことが望ましいと思います。</p>	<p>養育支援対象者への平均支援回数目標値は、対象 1 世帯につき年 2 回以上訪問、または来所により支援をするというものになります。</p> <p>養育支援は、訪問、来所のほか、電話やメールでの支援も同数程度実施しておりますが、本計画では訪問、来所のみ目標値を記載しました。</p> <p>また、養育支援は、こども家庭課でも民間委託を含めて実施しております。具体的には、「はぐくむ FUJI 家事育児サポート事業」等を紹介し、複数の機関による見守りの強化を図っております。</p> <p>地域の連携としては、各地区の主任児童委員等による見守り支援活動と協働して行っております。</p>	2 既に盛り込み済み
18	<p>子どもが減ってきているのに、小中高学生の自殺過去最多はやばすぎます。いまずぐに子育て環境を見直さなければ、今後も自殺者は増える一方だと思います。子どもたちが相談できるように電話や LINE 相談などのセーフティーネットを作っても、それを知らない・知っているけど使わない・知っているけど使えない子たちが多いです。先生にも言えない、親にも言えない、そんな子たちがたくさんいます。そんな悩みを抱える前からの子どもたちの安心できる居場所が</p>	<p>子どもの居場所についての御意見ですが、子どもの居場所づくりも重要なことと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p> <p>なお、子どもたちが悩みを人に相談できないことに関しては、様々な相談窓口の周知を強化するほか、本計画書の P44 のとおり、「SOS の出し方に関する教育の</p>	3 今後の参考にするもの

	<p>各地区に必要です。児童クラブや習い事は子どもの居場所になると思われがちですが、親の申し込みと料金が必要で、行きたくなくても行かなければならない場所です。そうではなくて、自分が行きたい時に行ける場所、人、空間が必要です。NPO 法人ゆめ・まち・ねっとがやっている『子どものたまり場や外遊びの場』が富士市内にたくさんできることが必要だと思います。</p>	<p>推進」を図るなど、子どもたちが SOS を出しやすい環境づくりを推進してまいります。</p>	
19	<p>中高生の自殺の原因の上位は学業不振や進路の悩みですよね。 幼稚園の頃から年齢以上のこと(鍵盤ハーモニカ、けん玉、鉄棒、跳び箱など)を求められ、調教され、カリキュラムをこなし、点数や成績で評価され、思春期のアイデンティティを確立しなければならない時にそれができずリストカット、摂食障害、非行、引きこもりから自殺となっているのではないのでしょうか。 乳幼児期に愛されること、幼児期に安心して失敗できる挑戦できる環境、学童期に友達とたくさん遊べる環境が必要です。早期教育の幼稚園の多い富士市は特に危険です。幼稚園から小学校低学年まで頑張ってきた我慢とストレスが、思春期で爆発します。今『保育園幼稚園の保育のあり方を見直す』必要があると思います。</p>	<p>保育園、幼稚園のあり方に関する御意見ですが、保育園、幼稚園のあり方も重要であると認識しております。 このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
20	<p>富士市には子どもの権利条例があります。SDGs でもパートナーシップとっています。こども未来課(こどもの居場所)やこども家庭課(幼稚園保育園・貧困・虐待)や教育総務課(不登校・発達障害)などと連携して、小中高生の自死について考えていただきたいです。 よく孤独孤立対策とかで、子ども食堂とかいいますが、申し込みが必要だったり、子供も料金が必要だったり、食べて終わりだったり、無理解な大人がいたりすると、学校でいじめられているとか親に成績のことで怒られるといった話は出てこないと思います。子どものためのクリスマスイベントとか、子供会など、たまにしか会わない大人にそんな愚痴をこぼすとは思えません。自分がとんでもなく辛い時に愚痴をこぼせる場所、相手はどこだろと想像してほしいです。我が子がもしそうだったら…。</p>	<p>子どもの自殺とそれに関連した庁内連携についての御意見ですが、本計画書の P67 にあるとおり、庁内関係課で組織する「富士市自殺対策庁内連絡会(ワーキンググループ会議)」において連携を図ってまいります。 また、保健、医療、福祉、教育、雇用、司法、警察等の関係機関で組織する審議会「富士市自殺対策推進会議」において、PDCAサイクルを通じた評価を行うなど計画の検証に努めるとともに、必要に応じ本計画の見直しを行ってまいります。 なお、悩みを抱えた子どもの相談先につきましては、様々な相談窓口の周知を強化するほか、本計画書の P44 のとおり、「SOS の出し方に関する教育の推進」を図るなど、子どもたちが SOS を出しやすい環境づくりを推進してまいります。</p>	2 既に盛り込み済み

21	<p>NPO 法人ゆめ・まち・ねっとでは、随時視察見学を受け付けています。こども未来課の方もよくみえています。どうぞご利用ください。</p> <p>(私はゆめ・まち・ねっとをちょっとお手伝いしています。)</p>	<p>NPO 法人ゆめ・まち・ねっとの御利用についての御意見ですが、子どもの居場所づくりも重要なことと認識しております。</p> <p>このため、頂戴した御意見につきましては、自殺対策庁内連絡会及びワーキンググループ会議、並びに自殺対策推進会議等で共有し、今後の自殺対策の参考といたします。</p>	3 今後の参考にするもの
----	--	---	--------------